※記載例を参照の上、ご記入ください。

（様式第3号）

企業・団体名（株式会社仙仁温泉岩の湯）

SDGs達成に向けた具体的な取組（要件２）【R5.11.30変更】

	カテゴリ	チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合選択入力	【予定】の場合選択入力	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載） （【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載）	主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
1	人権・労働	【差別の禁止】 ・性別、年齢、障がい、国籍、出身などによる差別を防ぐ教育体制や相談体制を整備し、差別がないことを確認している	基本			性別による不利益な差別はない。深夜労働、力仕事など業務は個人の適性を見極め、適正適所の対応している。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.7 8.8		10.2 10.3						16.1 16.2 16.7	
2		【ハラスメント禁止】 ・セクハラ、マタハラ、パワハラ等のハラスメントを防ぐ、ルール・教育・相談体制を整備している	基本			全員朝礼（毎日）、社内全体会議（月一）、リトリートミーティング（年3回）の場で問題把握に取り組んでいる。セクハラ撲滅ポスターの掲示。マタニティに関してはシフト管理等により、無理のない仕事を任せている。					5.1 5.2 5.5			8.5 8.8								16.1	
3		【労働時間】 ・過度な長時間労働の防止に取り組んでいる	基本			８＋２体制の構築につとめ、長時間労働の防止に取り組んでいる。 2時間ルール（2時間に1回程度自主的自己管理で休憩をとるルール） ＊８＋２体制：残業は2時間以内に収める								8.5 8.8									
4		【外国人労働者】 ・外国人労働者に対する差別、人権侵害がないことを確認している	基本			現在外国人の雇用はないが、今後外国人を採用した場合は差別、人権侵害を行わず、適材適所の対応をする				4.4				8.7 8.8		10.2 10.3							
5		【労働安全衛生】 ・作業中の事故等を防ぐため、安全で衛生的な労働環境の整備に取り組んでいる	基本			安全衛生委員会、社内全体会議や日々の朝礼で職場のリスク、ヒヤリハットなどの安全教育実施 掃除や片付けや屋外作業は会社からヘルメット、手袋などを支給している			3					8									
6		【メンタルヘルス】 ・労働者のメンタルヘルスを良好に維持できるように対策に取り組んでいる	基本			社員用福利厚生施設のカフェテラスや更衣室、休憩室を2019年7月に新築して、快適な場所を提供することでメンタルヘルスの向上に活用している。相談窓口や相談体制を明確にして、何でも気軽に相談できる雰囲気を造成している。			3														
7		【ダイバーシティ経営】 ・多様な人材（女性、外国人、障がい者、高齢者等）が、十分に活躍できる環境の整備に取り組んでいる	基本			高齢者（60歳以上）の継続雇用を実施 男女ともに子育て中の社員に対しては、子供の登下校時間に合わせた勤務時間や学校行事に対応できるように出勤日をシフト管理し仕事と子育ての両立を可能にできる組織風土を醸成している。					5.1 5.5			8.5		10.2 10.3							
8		【人材育成】 ・適切な能力開発、教育訓練の機会を従業員に提供している	基本			全体朝礼（毎日）、社内全体会議（月一回）、リトリートミーティング（年3回）時を教育の場として活用 外部のセミナー（管理者、新入社員ほか）に積極的に参加している				4	5.5			8	9								
9		【公正な待遇】 ・雇用形態に関わらず、同一労働同一賃金等の原則に沿って対応している	基本			以前から同一労働同一賃金を実施 全体朝礼（毎日）、社内全体会議（月一回）、リトリートミーティング（年3回）は全員参加で実施 同業他社での研修（ホテル・旅館）も全員参加（短時間パートタイマー含む）で実施					5.5			8.5		10.2 10.3							
10		【健康経営】 ・従業員への健康投資による生産性の向上等に取り組んでいる	チャレンジ			年2回の健康診断を実施。 希望者にはインフルエンザ予防接種を社内で実施（費用の半額負担） クリスマス、年末年始、春休み等、約30日間の休館日（R6年度は42日）を設け休暇の取得を促進している			3					8									

							主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
							1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
11	環境	【廃棄物】 ・廃棄物の管理を適切に行い、適切な処理に取り組んでいる	基本			今後、ゴミを出さない取組みとして納入業者に段ボールを使わないことを取引条件にしていく(納入時に段ボールではないケースを使用したり) 専門業者さんと相談してリサイクル出来るものは積極的にリサイクルするように整理している。 生ごみの一部、コーヒーかすを自社農園で堆肥化し活用している。今後さらに生ごみのたい肥化のプラントを導入予定											11.6	12.4		14.1			
12		【エネルギー・温室効果ガスの現状把握】 ・自社のエネルギー使用量、温室効果ガス排出量を把握している	基本			電気使用量、灯油使用量の把握し、節約に努めている。							7.3						13				
13		【省エネ・温暖化対策の計画・取組】 ・自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる	基本			電気使用量のピークを計測することで、冷暖房の効果的な使用、無駄の軽減を図り、エネルギー使用量の削減に取り組んでいる 施設に各所の配電盤にタイマーを設置し日照時間に合わせて不必要な点灯を防いでいる。 裏山及び庭園の整備に伴う伐採木を薪ストーブの燃料として活用し、化石燃料の削減に取り組む予定 順次、照明のLED化を進めている(R6年8割程度) 客室の電気ポットを順次、ケトルに置き換えた(R5年中に行った)							7.2 7.3					12.4	13.3				
14		【有害化学物質】 ・法令等で規制されている有害化学物質を把握し、使用量の抑制及び適切な使用に取り組んでいる	基本	【非該当】		塩素系、強酸性の洗剤などは全て使用しない 施設の整備には薬剤(除草剤、塩カル等)は使用せず、極力手作業で対応している。例えば除草剤を使わず皆で草取り等			3.9			6.3					11.6	12.4					
	カテゴリ	チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合選択入力	【予定】の場合選択入力	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載） （【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載）																	
15	環境	【生物多様性】 ・自社活動が生物多様性や生態系に悪影響を及ぼさないよう配慮している	基本			裏山の遊歩道や森林を整備し、自然環境の保全に取り組んでいる。例えば、治山の観点より山の保水能力を高めるべく山林の杉林に適正な間伐や枝打ちを行っている。定期的に雑木を植林している						6.6									15		
16		【３Ｒの推進】 ・リデュース、リユース、リサイクルに取り組んでいる	基本			専門業者さんと最終的にどうリサイクルされていくか相談しながらリサイクルできるものは出来るだけリサイクル出来るような仕組みづくりを行っている。(廃油だけではなく、天ぷらカスも石鹸やバイオディーゼルにまでリサイクル出来るような体制)(すべてではないが、古書、書類もゴミに出さずに専門業者さんに引き取ってもらっている) 廃温泉水を融雪に再利用している 生ごみの一部、コーヒーかすを自社農園で堆肥化し活用している。今後さらに生ごみのたい肥化のプラントを導入予定 廃ピンのリサイクルを取引条件にしている												12.5		14.1			
17		【水の管理】 ・水資源の利用状況を適切に管理し、利用効率の改善に取り組んでいる	チャレンジ			水道使用量を把握し、節水型のトイレ設備に順次切り替えている 廃温泉水を融雪に再利用している 飲用許可を取得して上で、料理や飲用として、源泉水を提供している						6.4 6.6											
18		【環境マネジメントシステム】 ・ISO14001、エコアクション21または同等の環境マネジメント規格を取得している	チャレンジ			当面認証取得の予定はないが、今後の事業展開、社会情勢により、必要があれば取得を検討する			3.9			6	7					12	13.3	14	15		
19		【環境情報開示】 ・環境の取り組みに関する情報を正しく開示している	チャレンジ			当社パンフレットに自社農園で採れた無農薬野菜の使用を紹介している 館内案内に環境への取り組みを紹介する パンフレットに、SDGsの取り組みを記載する												12.6					
20		【再生可能エネルギーの利用】 ・再生可能エネルギーの利用に取り組んでいる	チャレンジ			廃温泉水を屋根、外通路、旅館へのアプローチの融雪に再利用している 温泉熱源を利用したヒートポンプシステムの導入を検討している 裏山及び庭園の整備に伴う伐採木を薪ストーブの燃料として活用する予定							7.2						13				

							主なSDGs（17ゴールと169ターゲット）関連項目																
		チェック項目	取組レベル	【非該当】の場合選択入力	【予定】の場合選択入力	具体的な取組 （県などの取得認証があれば、併せて記載） （【非該当】を選択した場合はこちらに理由記載）	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
21		【天然資源の持続的利用】 ・天然資源の持続的利用に配慮した調達に取り組んでいる	チャレンジ			地元のリンゴの剪定枝を串に加工したり、施設内や地域の竹林整理時の伐採竹を食器（竹とっくり、竹ちょこ）に活用している 敷地内の草木を料理や花材として使用している 当社の温泉は全て自然湧出で動力による温泉の採掘はしていない												12.2	13	14	15		
22	公正な事業慣行	【汚職・贈収賄防止】 ・汚職・贈収賄を禁止する方針を掲げ、社員に周知している	基本			就業規則で定め、随時社員に伝達している																16 16.5	
23		【公正な競争】 ・不正競争行為に関与しない方針を掲げ、社員に周知している	基本			同上																16	
24		【知的財産保護】 ・知的財産の保護に取り組んでいる	基本			コンプライアンス順守を随時社員に伝達している								8.2 8.3	9								
25		【個人情報保護】 ・個人情報を適切に管理している	基本			お客様情報は適正、適切に管理し、処分している。随時社員に周知徹底している。必要な時は全体朝礼（毎日）、社内全体会議（月一回）、リトリートミーティング（年3回）等で周知させている。																16	
26		【紛争鉱物】 ・紛争鉱物を取り扱っていないことを確認している	チャレンジ	【非該当】		当社は業種柄紛争鉱物の取り扱いはない																16	
27		【サプライチェーン管理】 ・サプライヤー、事業パートナー等と、人権侵害の防止、生物多様性や生態系への悪影響の防止、倫理面での適切な対応（ハラスメント・汚職・贈収賄防止）について認識を共有し、共に取り組んでいる	チャレンジ			コンプライアンス遵守を取引業者さん相手にも徹底するよう社員に周知している。 市場や農協に出せない傷リンゴなどの果物や農産物を無駄にしないよう、地元の農家から購入したり、地元市場と協力して買い付けている。 取引業者さんとのパートナーシップ（いい関係づくり）を社員間で徹底している。					5			8		10		12	13	14	15	16	17
28		【パートナーシップ構築宣言】（R5.9.5～追加） ・中小企業庁等が推進する「パートナーシップ構築宣言」を作成・公表している	基本		【予定】	以前より世界情勢の変化やエネルギーコストの上昇や取引業者さんの経営環境の変化に応じて価格上昇（価格転嫁）の相談には積極的に相談に応じ、協議しながら適正な範囲で受け入れている。（リネン関係、印刷物、菅愛備品関係、鮮魚関係、青果関係満額回答）。 「パートナーシップ構築宣言」の登録については現在（R6年5月末）時点で進行し登録の予定です。。			3					8	9	10							17
29		【製品・サービスの安全性】 ・製品・サービスの安全性を確保するための仕組みを構築している	基本			提供する料理についてはHACCPによる衛生管理を進めている 専門の警備会社のシステム（人的管理、機械管理）を利用している 自然災害に備え森林の治山管理を行っている			3.9									12.4					

30	製品・サービス	【品質保証】 ・品質のよいモノやサービスを提供するための仕組みを構築している	基本			当社の理念を実践し保証していくために、「五権分立の徹底」「健全な批判精神」「主体的当事者」は核心的仕組みである。左記共有の場として、全体朝礼(毎日)、社内全体会議(月一回)、リトリートミーティング(年3回)の場がある。									9								
31		【環境配慮】 ・環境に配慮した製品の開発・設計に取り組んでいる	チャレンジ			自然との一体感のある施設づくり、森林を活かした遊歩道の整備 省エネルギー設備への随時更新を行っている						6						12	13	14	15		
32		【社会課題解決】 ・社会課題を解決する製品・サービスの開発・展開に取り組んでいる	チャレンジ			情けと癒しの旅文化の創造による人生商品の開発提供。自然との一体感のある施設づくり、大地の恵みである温泉、遊歩道を活かした森林療法、情けのサービス等により、今後さらに拡大するストレス社会において、自己治癒力を高め、人間性を回帰する場となり、社会やお客様に貢献していく。	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
33	社会貢献・地域貢献	【地域への配慮】 ・自社事業が地域に与える影響を把握し適切に対応している	基本			地域に根差す中小企業として、雇用の創出に貢献し、地消地産を推奨し、地元の取引先、地域の農産物及び加工品の積極的使用により、地域社会の発展に貢献している				4					9		11	12		14	15		17
34		【社会貢献活動】 ・寄付、ボランティアなど社会貢献活動に積極的に取り組んでいる	チャレンジ			地域のお祭りやイベントへの協賛、従業員の地域活動の参加を支援している				4							11			14	15		17
35		【地域資源】 ・地域資源を積極的に利用（地消地産、地産外商）している	チャレンジ			地域に根差す中小企業として、雇用の創出に貢献し、地消地産を推奨し、地元の取引先、地域の農産物及び加工品の積極的使用により、地域社会の発展に貢献している。他県からのお客様へは地域の食材の積極的利用によりアピールしている。他地域の方が知らないような地域内の観光資源(観光名所、名店等)を積極的にお勧めしている。								8	9		11	12	13				
36	組織体制	【内部管理体制】 ・経営理念及び経営目標を社内で共有している	基本			当社の価値観を実践し保証していくために、「五権分立の徹底」「健全な批判精神」「主体的当事者」は核心的仕組みである。左記共有の場として、全体朝礼(毎日)、社内全体会議(月一回)、リトリートミーティング(年3回)の場がある。今後、個別面談の場を整備、充実していく。								8	9								17
37		【法令遵守】 ・法令遵守の考えが社内に浸透し、法令を確実に遵守する体制・仕組みを構築している	基本			全体朝礼(毎日)、社内全体会議(月一回)などを通じて法令遵守を徹底している																16	
38		【組織体制】 ・企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対応する担当、専門部署などの体制を整備している	基本			SDGs推進チーム中心にSDGsに取り組んでいる。																16	
39		【ステークホルダーとの対話】 ・ステークホルダー（※）との対話により、自社の活動がステークホルダーに及ぼす影響を把握し、適切に対応している（※利害関係者：消費者、投資家等及び社会全体）	基本			SDGs宣言し、お客様、お取引先などステークホルダーに認知していただき、フィードバックしながら進化させていく。																16	17
40		【リスクマネジメント】 ・リスクを特定、評価し、マネジメントするプロセスを整備している	チャレンジ			防犯システムの整備、火災訓練、避難訓練などを定期的に実施している。 食品衛生管理としてHACCPの導入を進めている。 感染症対策に積極的に対応している。 ヒヤリハットなど、ちょっとしたことささいなこと、何でもないことでも提案しやすい社風の整備																16	
41		【社会的責任】 ・ＣＳＲ（Corporate Social Responsibility：企業の社会的責任）の考えに基づき企業活動が社会・環境に及ぼす影響に対して、責任を持った対応に取り組んでいる	チャレンジ			SDGsを推進し、法令遵守を周知徹底している																16	
42		【事業継続】 ・事故や災害などの発生における事業継続計画を立案している	チャレンジ			消防計画を立案作成し、火災訓練や避難訓練を実施している 緊急時における非常事態対応の体制や連絡体制を整備し対応している。									9		11		13 13.1			16	

43		【事業承継】 ・事業承継に関する検討・対策を行っている	チャレンジ			経営会議や運営会議による経営課題の把握、現状認識対応策の実践のプロセスを通じ、経営理念の共有を図り、中間幹部を育成している								8	9								17

上記以外で設定した取組項目

独自に設定したSDGsに資する取組		具体的な取組	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17

【記載留意事項】

・「取組レベル」の「基本」の項目のすべてに「具体的な取組」が記載されていることが登録の必須条件となります。なお、今回の宣言に合わせて、今後、取組む予定のものであっても、その取組を「具体的な取組」を記載いただければ登録が可能です。（今後、取り組むものについては、「具体的な取組」の前の【予定】を選択入力してください。）

・【非該当】欄については、「チェック項目」が事業形態上（個人事業主等）、該当しない場合に選択入力し、その理由を「具体的な取組」欄に記載してください。

・「具体的な取組」には、チェック内容に関する具体的な取組を記載するほか、取組に関連する国際機関、国、県、市町村等の認証・認定等（※）を取得している場合は、できるだけ、その旨を併せて記載してください。

（※職場いきいきアドバンスカンパニー認証制度、女性の活躍推進企業知事表彰、男女共同参画推進県民会議表彰、障がい者雇用優良事業所等表彰、信州豊かな環境づくり県民会議表彰、長野県技能評価認定制度、ＮＡＧＡＮＯものづくりエクセレンス認定、信州福祉事業所認証・評価制度、信州リサイクル製品認定制度、信州の環境にやさしい農産物認証制度、長野県原産地呼称管理制度、信州おもてなし大賞、えるぼし認定、循環型社会形成推進功労者表彰、森林認証制度、森林CO2吸収評価認証制度、長野県県産材CO2固定量認証制度、消防団協力事業所表示制度など）

○ この「要件２」は、ISO26000（※１）、RBA（Responsible Business Alliance）（※２）行動規範等を参考に、非財務情報（SDGsの観点で市場・社会から期待される基本的な事項）について整理し作成
○ 「SDGsとの関連性」については、各項目について、169のターゲットに直接的に当てはまる場合は**黒字**、　間接的（結果として）に寄与する17ゴールが当てはまる場合は、**赤字**で番号を記載
○ 企業が県へ申請する際には、チェック欄へのチェックとあわせ、「具体的な取組」へ取組内容を記載
※１…組織の社会的責任に関する国際規格　　※２…労働環境、製造プロセスの環境負荷に対する責任を持っていることを確認するための規定